

東北高校野球

第 1 日

第72回春季東北地区高校野球大会が10日、山形県で開幕し、ヤマリョースタジアム山形(中山町)と米沢市営野球場で1回戦6試合を行った。本県第2代表の八戸学院光星が、盛岡大付(二宮第1代表)を2-0で破り、第1代表の青森山田は山形城北(山形第3代表)に4-3で勝利した。第

3代表の青森北は聖和学園（宮城第2代表）に2―3で逆転負けを喫した。11日は両球場で準々決勝4試合を行い、青森山田は仙台育英（宮城第1代表）と、八学光星は学法石川（福島第2代表）とそれぞれ戦った。

(佐藤正悟、棟方好華)

山田高、光星準々決勝進出

(左のチームが一塁側)

◇準々決勝

▷米沢市営野球場

青森山田—仙台育英(10・0)

八学光星—学法石川(12·30)

北口、及川 零封リレー



▽1回戦 米沢市営野球場
 八学光星
 0020 0000 0000 0000 0000 0020
 盛岡大付
 (八) 北口、及川、米澤
 (盛) 若林、雨田、國島、萩原
 △2塁打 押田心2 (八)
 【評】八学光星が序盤のリードを守り切った。二

回、押田小の四球と北口の安打で2死・一三塁とすると、光田が左中間に2点適時打を放ち先制。これが決勝点となった。先発北口は5回を投げ、被安打5、2奪三振と力投した。継続投し及川も4回を2安打に抑える粘り強い投球を披露。計4イニングで得点圏に走者を置いたが、味方の堅守にも支えられ得点を許さなかった。

光田「投手陣助けたい」

八学光星の光田の一打がチームに勝利をもたらした。二回二死、三塁、一体が勝手に動いた」と、狙ひ球でなくはじき返した高めの直球を左中間へはじき返し、2者が生還果的にこれが貴重な決勝打となった。殊勲の一番打者は投手陣を助けたかった。チャンスの場面で一本が監督よかったです」と笑顔。仲井監督も「一生懸命練習してきた選手。(打てて)よかった」と褒めたたたえた。

この日は投手陣も奮闘した。右肘の違和感から調整を

チャンスで発奮

続けていた先猪北口は、昨秋の県大会以来となる公式戦での登板となったが、スライダーとチェンジアップを繼に相手打線を手玉に取った。繼投した及川は、打ち取るたびに雄たけびを上げる気迫あふれる投球で霧封リレーを締めくくった。指揮官は粘り強く、最後まで諦めずに戦うことがチームに浸透していると思う。選手たちにとって意味のある試合になった」と評価した。

準々決勝は学法石川(福島)とぶつかる。光田は「接戦になると思うが、打線をつないで勝たない」ときっぱり。北口も「全員でカバーし合いながら粘り勝ちたい。まだまだ勝ちます」と意気盛んに話した。

(棟方好華)